

漁村集落における街路特性の変遷に関する研究 その1： 放生津地区における街路空間の変容

富山県射水市 歴史的変遷 HOPE 計画
新湊内川 越中浜往来 新町商店街

準会員 ○重山隼人*1 正会員 藪谷祐介*2
正会員 北野まつ葉*3 同 有原千尋*4
同 北島陽貴*4 同 谷内遥香*5

1. 研究の背景と目的

富山県射水市新湊地区の海岸部にある放生津地区（以下、放生津）（図 1）は富山湾に面し、内川を軸に漁業が繁栄してきた漁村集落である。漁作業などの作業場として利用された内川沿い、商店が軒を連ねた新町商店街（以下、商店街）、網元や廻船問屋など有力な家が立ち並んだ越中浜往来（以下、浜往来）の三本の街路は、住民や同業者同士の独自のコミュニティが構築される場であった（図 2）。近年は人口減少や生業の衰退に加え、HOPE 計画による観光地化などの影響により、街路特性に変化が生じていると考えられる。そこで本研究は、街路空間と街路利用の変化から街路特性の変遷を把握することを目的とする。それにより、歴史的変遷を踏まえた漁村の今後の在り方を考える上での有用な知見を得られると考える。本研究は2編で構成され、本編では生業の変遷を概観し、街路空間の変容を整理する。

2. 調査方法

生業の変遷について、新湊市史¹⁾、しんみなとの歴史²⁾、先行研究³⁾⁴⁾を参照し第3章に記述する。旧新湊市で施行された都市環境整備事業である HOPE 計画について、HOPE 計画新湊市地域住宅計画⁵⁾⁶⁾、新湊市地域住宅計画策定調査報告書⁷⁾をまとめ、令和2年6月に射水市都市整備部職員と当時 HOPE 計画策定に携わった職員へのヒアリング調査で得られたものを併せて、第4章1項に記述する。各街路空間の変容について、新湊に関連する資料をまとめたものを第4章2項に記述する。

3. 生業の変遷

好漁場である富山湾を背景に、放生津では奈良時代から漁業中心の経済が確立されていた。藩政期は網元、明治期は廻船業、大正期に入り商業から工業へと資本力は移り変わった。漁業の最盛期には100艘以上の漁船が内川に係留され、内川沿いや浜往来の北側の幅員2mに満たない街路にまで作業空間が広がっていた。

明治時代中期以降、汽船や鉄道の整備に伴い廻船業が近代化を迫られた。その結果、漁船が巨大化し内川への係留が困難となり、漁船の係留場所は海岸の漁港に移動した。それに伴い漁作業の場も漁港に移動したため、街中で見られる漁船や漁作業の風景は減少した。



図1 放生津地区の位置^{注1)}



図2 放生津地区の地図^{注1)}

4. 各街路の概要

4-1 HOPE 計画による街路空間の変容

1989年に都市環境の高度化を目的としたHOPE計画が旧新湊市で実施され、各地域の特性と課題改善のための政策が策定された。海岸部の放生津地区は既成市街地エリアと区分され、木造密集市街地の整備、街中の緑不足、二戸一化住宅の空き家の増加、広すぎる準防火地域の4つの課題を改善するために7つの政策が計画された。

そのうち内川沿いの景観整備計画では、オープンスペースや緑地の少ない既成市街地において、内川を活用した穏やかな親水空間を設けることで、旧市街地への興味を集めることを目的とした計画が行われた。作業空間であった内川沿いにはベンチや植栽が整備され、くつろぎの場へと変容した（図3、図4）。その後、ドラマや映画の

ロケ地として使われ、地域外からの認知度が上がった結果、観光地化が強まり観光客や移住者の増加が見られる。

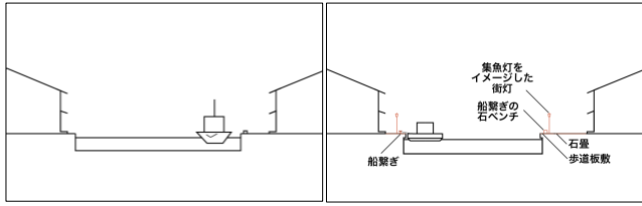


図3 HOPE 計画以前内川断面図

図4 HOPE 計画以降内川断面図

4-2 街路空間の変容

浜往来、内川沿い、商店街の三本の街路は、生業や住民生活の様子が色濃く現れ、街路特性が顕著であると考えられるため、本研究ではこれらを対象に研究を行う。

4-2-1 越中浜往来

昭和初期頃まで、放生津八幡宮などの浜往来沿道に点在する社寺では市場が開催され、多くの人で賑わう街道であった(図5)。浜往来には漁業や廻船業、水産加工業などに従事する人が多く居住し、特に山王町、中町には網元や豪商など有力な町民が居住した。木造の町屋が多い放生津では大火により度々町並みが失われ、その度に区画整理が行われた。その結果、幅員が拡張された浜往来と直行する街路に囲まれる街区が形成された。

現在の浜往来は、射水市のコミュニティバスの運行経路であるなど、車両の通行が頻繁に見られる(図6)。人口減少で増加した空き家を活用し、宿泊体験施設やゲストハウスが展開され、移住者を呼び込む動きが見られる。



図5 昭和15年の浜往来⁸⁾

図6 令和2年の浜往来

4-2-2 内川沿い

外海より波が穏やかで安定している内川は、船の係留に適し、船での荷物や漁具の運搬、積み下ろしのための運河として利用された(図7)。漁師が利用する番屋や漁具倉庫のある場所では、漁網の掃除や漁具の積み下ろし、炊き出しなど、漁村独自の生活行為が見られた。HOPE 計画以前の内川沿いは舗装されておらず、幅員1mに満たない箇所もあった。魚の残骸や野良猫が溜まり、作業空間としての認識が強かった。

HOPE 計画以降、「日本のベニス」と称される内川の美しい景観を求めた来訪者や移住者が増加している(図8)。



図7 昭和10年の内川⁸⁾

図8 令和2年の内川

4-2-3 新町商店街

鮮魚や水産加工品をはじめ、日常生活に必要な専門店が軒を連ねた新町商店街は、立町商店街(図9)と並び、昭和30年頃に最盛期を迎えた新湊の台所であった。

現在では、遠方への買い物が容易となり、住居の徒歩圏内にあるものの商店街の需要が徐々に低下した(図10)。HOPE 計画によって旧市街地全体の居住環境の整備が進められ、商店から住宅への変容が見られる。



図9 昭和33年の立町商店街⁸⁾

図10 令和2年の新町商店街

5. まとめ

かつて自然発生的に存在していた作業空間は、漁業システムの変容や都市の高度化により集約され、街中から減少した。商業空間の郊外への分散は商店街の需要低下をもたらし、地域内で完結していた経済構造に大きな影響を与えた。浜往来には昔からの居住空間が広がり、作業空間であった内川沿いは憩いの場や観光資源として価値が見出され、商業空間であった商店街は居住空間へと変容が見られることが明らかとなった。

注

注1) 国土地理院地図を基に筆者作成

参考文献

- 1) 新湊市史編纂委員会:「新湊市史」-新湊市,1964
- 2) 新湊の歴史編さん委員会:「しんみなとの歴史」-新湊市,1997.10
- 3) 中井理恵子,富山大学人文学部文化人類学研究室:地域につながる-富山県射水市の調査記録,新湊・内川の空き家問題と景観保存 28,2019
- 4) 藤田美緒:放生津地区の“町並み”の特徴と変遷,富山大学芸術文化学部平成27年度卒業論文,2015
- 5) 新湊市:HOPE 計画新湊市地域住宅計画-ゾーン別親しみやすい街並形式-ふるさとの水辺と住宅,1988.11
- 6) 新湊市:HOPE 計画新湊市地域住宅計画-ゾーン別親しみやすい街並形式-私たちの街並み家並み,1988
- 7) 新湊市:新湊市地域住宅計画策定調査報告書-ゾーン別 HOPE 計画雪に強い家づくりなつかしいまちなみ形成,1986.3
- 8) 目で見える高岡・氷見・新湊の100年,郷土出版社,1993.11

*1 富山大学芸術文化学部 学部生

*2 富山大学学術研究部芸術文化学系講師・博士(デザイン学)

*3 グリーンノートレーベル株式会社

*4 富山大学大学院芸術文化学系研究科大学院生

*5 株式会社トミソ

*1 Undergraduate, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama

*2 Lecturer, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, Doctor of Design

*3 Green Note Label Inc.

*4 Students, Graduate School of Art and Design, Univ. of Toyama

*5 Tomiso Corporation